

4月18日[Mon]

多久聖廟で春季釈菜

◀▼中国の古式にならない儀式が執り行われました



佐賀県重要無形文化財の「春季釈菜」(主催:公益財団法人孔子の里)が多久聖廟で開催され、伶人による雅楽の演奏が流れるなか、厳かに式典が進められました。

献官役の横尾俊彦市長が見守るなか、孔子、顔子、曾子、子思子、孟子に供物や甘酒を奉納し、祝文を納め、献詩も行われました。釈菜後には、聖廟イベント広場で東原彦舎西溪校の児童・生徒が釈菜の舞や参列児童の唱歌、孔子の里腰鼓を披露。最後は一般社団法人多久市観光協会趙勇事務局長の揚琴の調べが響き渡りました。

東京都から観光で訪れた女性は「見事な聖廟で300年以上も行事が続いているのは素晴らしいこと。見に来て良かったです」と楽しそうに話されました。



▲雅楽を演奏する伶人



▲西溪校8年生による「釈菜の舞」



▲西溪校2～5年生による「参列児童の唱歌」



▲西溪校6年生による「孔子の里腰鼓」

02	まちの話題
04	特集1 防災の基礎知識
06	特集2 特定健診
08	多久市からのお知らせ
13	あじさいへ行こう!
14	教育委員会だより
15	市長コラム
16	健康ノススメ
18	おたっしゅだより
20	まちのPickUPインフォメーション
24	Hi! POSE ほか

今月の論語

三人行、必有「我師」焉。
 さんじんおこな
 三人行へば、必ず我が師あり

出典..述而第七

三人いっしょに行動すると、その中に必ず先生としてふさわしい人がいる。

今月の帰宅放送は、東原彦舎西溪校9年の山口壺璃さんです。



多久市公式 Twitter



多久市公式 YouTube



多久市公式 Instagram



多久市公式 Facebook

